

新・こどもと健康

No.9

2017.10.2

インフルエンザワクチン開始が例年よりかなり遅くなります。

昨シーズンはインフルエンザワクチンの受付を10月1日に、接種を10月19日に開始していましたが、今シーズンはワクチンの生産がかなり遅れていて、いつどれだけ確保できるのかははっきりせず、予約のスタートもできない状態です。

生産が遅れた主な理由は、選定株を途中で変更したから

(インフルエンザ)ワクチン株選定検討委員会が5月2日に選定したワクチン株は

- ①A/シンガポール/GP1908/2015(IVR-180)(H1N1)pdm09(昨年と違う株)
- ②A/埼玉/103/2014(CEXP002)(H3N2)(昨年と違う株)
- ③B/プーケット/3073/2013(山形系統)
- ④B/テキサス/2/2013(ビクトリア株)

でしたが、②に関して、昨年の香港株と比較して蛋白収量が約33%程度と大幅に低下することが判明し(当初は約84%に低下見込みでした)、最大限の生産を行った場合であってもインフルエンザHAワクチンの総生産量は約29%程度減ると予想されました(6月12日)。このため、昨年の香港株に戻して生産を開始することが検討され、7月12日に②を香港株にして生産することが決定しました。

生産量としては、昨シーズン使用量の4%減(見込み)です。

今シーズンの予想製造量は2527.5万本で、昨シーズンより250万本以上減ります(ほぼ1割)。昨シーズンに使用されたのが2642万本だったので、実際に使用された数からいえば、たった4%少ないだけです。されど1本も無駄にされずに使用されたとして、約114万本少ない...。少しずつ工夫を重ねたらそれくらいは出てくとも考えられますね。

そこで厚生労働省は下記のような指針を出してきました。

9月15日付で、

- A. 13歳以上の者が接種を受ける場合には医師が特に必要と認める場合を除き「1回注射」であることを周知徹底すること。
- B. 昨シーズン以上にワクチンの効率的な活用を徹底すること。

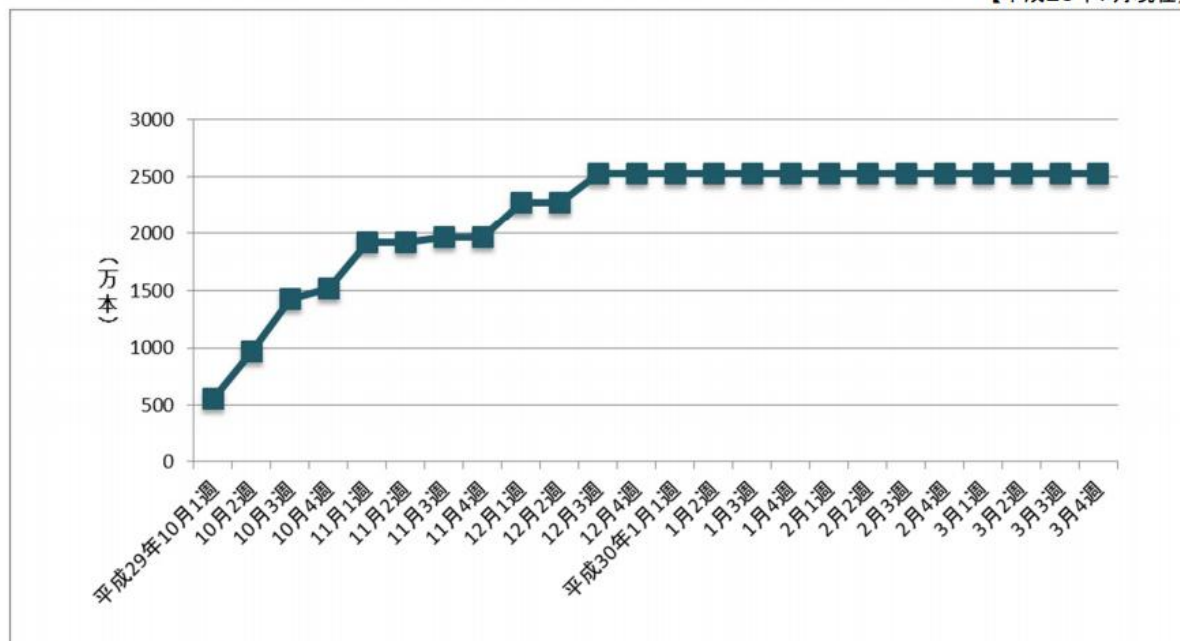
Aに関しては、用法に「1回又はおよそ1～4週間の間隔をおいて2回注射する。」と書いてあるため、釘を刺していると言えますが、もともと13歳以上は1回を標準にしてきたので特に変わったという感じではありません。ただ、受験生の方にお薦めしていた2回目を今回はやりにくいです。

製造は予定よりもっと遅れている？

厚生労働省がワクチンの供給予定の見込みを出していました。

今シーズンにおけるワクチンの累積供給予定量見込み

【平成29年7月現在】



※ 1mLを1本に換算

上の表からいけば、10月の第2週で1000万本/2500万本=4割、同第4週で1500万本/2500万本=6割は出荷されるという見込みでしたが、どうもそううまくいっていない感じです(厚生労働省から出た「季節性インフルエンザワクチンの供給について」は9月15日の発信ですが、見込みは7月のままです)。当科の納入業者さんの話では、本格的に流通するのは12月に入ってからになりそうです。当科に関しての話では、今のままでしたら、10月中旬にわずかに入荷できるかどうか。その後10月末までに1回、11月に1回、12月に入って2~3回入荷になるとのことです。

予約や接種開始はいつ、どれだけ納入されるか

確実にってから

以上のような状況です。入荷日と確保量が確実になった時点で、不定期に予約を開始、あるいは再開、確保量がなくなったら停止を繰り返すことになりそうです。また、受験生の方や当科にかかっておられる方の優先なども検討が必要かと思っております。

出典:第16回厚生科学審議会予防接種・ワクチン分科会研究開発及び生産・流通部会配付資料1『2017/18シーズンにおけるインフルエンザワクチンについて』、同資料2『2016/17シーズンの国内外のインフルエンザ流行株(総まとめ)および次シーズンのワクチン株について』
厚生労働省『平成29年度インフルエンザHAワクチン製造株の決定について(通知)』
厚生労働省『季節性インフルエンザワクチンの供給について』

10月・担当医の変更

3日(火)午前診	赤澤→片桐
7日(土)午前診	片桐→赤澤
28日(土)午前診	片桐→赤澤
31日(火)午前診	赤澤→片桐